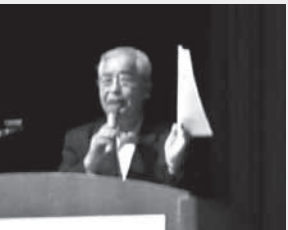


「家庭用エアコン」一台の冷媒で、レジ袋10万枚分以上?!」 オゾン層保護・地球温暖化防止に 向けてシンポジウムを開催

ACTIVE KUMIAI



講習会の様子

一般的な家庭用エアコン(8畳用)1台には約1kgの冷媒(フロン)が使用されている。このフロンが大気中に漏れることで、CO₂換算では2トン分、レジ袋10万枚以上を使用すると同等の温暖化効果になると言われている。

山梨県冷凍空調設備事業協同組合(山下喜幸理事長)及び社団法人山梨県冷凍空調設備保安協会(矢崎忠芳理事長)は、11月16日、山梨県立文学館に於いて、「地球環境を守るシンポジウム」in やまなし「オゾン層保護・地球温暖化防止に向けて」を開催した。

この事業は、広く一般にオゾン層保護、地球温暖化防止に向けた活動への理解・関心・協力を得ることを目的として、今年度で第3回目の開催となる。

第1部は、「最近の異常気象と地球温暖化について」(NPO法人気候ネットワーク 桃井貴子氏)、「フロン排出削減対策の現状と展望」(一般社団法人日本フロン回収事業協議会顧問 高須英彰氏)と題した基調講演が行われ、「排出される冷媒の内、オゾン層破壊に影響のあるモノの割合は減りつつあるが、温暖化への影響は増加している現状を一般にもっと理解してもらい、全排出量を減らさなければならぬ」と提言が行われた。

第2部のパネルディスカッションでは、NPO法人ストップフロン全国連絡協議会代表の西園大実氏をコーディネーターに、フロンの最適使用と管理が地球温暖化を防止する」というテーマに基づいて、組合・協会・業界団体の代表者からフロン排出削減の取組みの見える化、冷媒使用機器の導入から廃棄・フロン回収・再利用までの行程をデジタル管理するなど、組織的に将来を意識した新たな事業への取組の重要性などが話し合われた。

企業・個人を含め、消費者が意識することで改善されることは多い。もっと一般の人々に協力してもらえよう啓蒙普及活動を続けていきたいと主催者は語っている。

TOPICS 山梨県冷凍空調設備事業協同組合・社団法人山梨県冷凍空調設備保安協会